

# 令和5年度 事業計画

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

公益財団法人 伊藤青少年育成奨学会

## 1. 理念

青少年の育成は、地域発展の礎であり、日本の未来です。ひいては世界との協調の礎であり、地球の未来でもあります。

青少年という種に水を遣り、蕾を持たせ、そしてやがて大輪の花を咲かせる力を蓄えさせる。それが当財団の事業です。すなわち、眠れる才能を揺り起こし、自己実現を成し遂げる過程が社会に尽くすことになるというような人材育成を目指しています。

## 2. 基本方針

当奨学会は、文化、スポーツ、武道、歴史、芸術、学術、教育及び国際交流・多文化理解等の各分野において、青少年の健全育成又は地域社会の活性化を目的とする活動に対し、経済的援助を行うこと、並びに振興及び普及に関する事業等を行うことで、もって次代を担う人材の育成と、豊かな文化、スポーツ、芸術等の涵養、並びに活力ある地域社会の実現に寄与することを目的とする。

当該目的に基づき、令和5年度においても下記のとおり奨学金給付事業、高等学校等クラブ活動及び地域振興活動に対する助成事業、並びに地域活性化事業等を実施する。また、令和3年度に完成させた武道場「漱玉館」においては貸与事業のみならず、開設1周年を記念して今年度において開催した「漱玉館杯争奪東海女子学生選抜剣道大会」を中部地区大会へと発展させるなど、青少年育成、伝統文化継承に資する事業を積極的に企画・運営する。

## 3. 公益目的事業

### (1) 奨学金給付事業

#### ①令和6年度新規奨学生募集、選考について

大学生・大学院生

採用人数	大学生40人前後	大学院生10人程度
募集開始	令和5年10月1日(日)	
受付期間	令和5年11月21日(火)～12月20日(水)	
一次選考(書類)	令和6年	1月23日(火)
二次選考(面接)	令和6年	3月13、14、15日(水、木、金)
選考委員会	令和6年	3月15日(金)
	会場	パロー文化ホール
最終選考(理事会)	令和6年	3月19日(火)

②令和5年度奨学金給付について

1人月額3万円 年額36万円 支給月 6月・12月  
令和5年度奨学生募集期間 令和4年11月21日～12月20日  
令和5年度大学院生 採用 10人（応募12人）  
内当奨学会奨学生4人（採用・応募共）  
選考会 令和5年1月24日（火）  
書面及び小論文（永田和宏・著『知の体力』）

令和5年度大学奨学生 採用 43人  
応募人数 77人、応募高校44校（内県外9校）  
一次選考会 5年1月24日（火）  
書面及び小論文（小林武彦・著『生物はなぜ死ぬのか』）  
一次選考 通過者49人（辞退 1人）  
二次選考会（面接）5年3月15、16、17日（水、木、金）  
二次選考 通過者43人（内3年編入1人）

令和5年度 大学・大学院生 総給付金額 6,264万円  
給付生内訳  
大学 6年 3人 大学院2年 8人  
5年 1人 1年 10人  
4年 32人  
3年生 41人  
2年生 37人  
1年生 42人  
大学奨学生 合計 156人  
院生含全給付生 合計174人

(2) 助成事業について

令和5年度助成事業	採用		助成金額
高等学校等クラブ活動	40	団体	2,350万円
地域振興活動	20	団体	2,000万円
合計	60	団体	4,350万円

①募集受付	令和5年3月21日～4月20日
②選考 一次	令和5年5月16日(火)
最終選考(理事会)	令和5年6月20日(火)
③助成金贈呈式	令和5年7月7日(金)
④助成金交付	令和5年7月20日(水)

#### 令和6年度助成事業

PR開始	令和6年3月1日～
募集受付	令和6年3月21日～4月20日

#### (3) 主催、共催、後援、協賛等地域活性化事業について

講演・教室等スポーツ・文化事業の主催、共催など、武道場『漱玉館』の活用も含め、活性化事業を実施する。

記念催事「第2回漱玉館杯争奪女子学生選抜剣道大会」を4年度の東海地区対象から、中部地区に地域を拡大して実施する。

地域の歴史、文化の伝承や、地域における映像文化の復活などを目的に、織田信長と濃姫を描く東映映画「レジェンド&バタフライ」を、4月30日(日)に、バロー文化ホールで上映する。料金1人1200円、25日(土)よりバロー文化ホールにて入場券発売。

予算 500万円

(2)の地域振興助成事業及び(3)の主催、共催、後援、協賛等地域活性化事業については、応募状況等をみながら、助成金額を調整することとする。

#### (4) 武道場 貸与事業について

地域少年団活動での利用から、大学、実業団、警察等わが国トップクラスの団体による試合や合宿などでの利用を促し、広く活用されるよう努める。

予算(収入) 18万円

#### (5) 広報活動について

Webサイト、および機関紙「奨学会だより」の充実を図り、ポスター、チラシなどの媒体や、パブリシティの活用などにより、公益法人としての当財団事業の周知に努めます。